
放課後は彼氏と寄り道を

優美香

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

放課後は彼氏と寄り道を

【Nコード】

N4659X

【作者名】

優美香

【あらすじ】

「ノクターンノベルズ」「小説家になろう」内で連載している【放課後、彼女にキスしよう】の作者の活動報告の転載、並びに、日々の雑感を綴って行きたいと思っています。

固定愛読者という有難い存在について

ちょっと前に「ラノベを軽蔑すんなバカにすんな」と

某SNS上でネチネチ因縁を付けられていた話は、ここ活報でサラッとしたと思う。

そういう時、大概の人は私の対応の仕方を見ていると思うのであそこの上では何とかオトナの対応をする訳で……。

因縁ワナビ様が個別メッセージまで使って、謝罪と賠償を要求していた直後。

ここ「なるう」にも登録していた読み専A氏。
仰ってました。

「あの人、プロの作家になりたいんですよね？」

作家って【通りすがりのその人！あなたの心を掴んでみせる！】って頑張るものなんのではないでしようか

わたしが彼の内輪だけで盛り上がっている小説コミュを見ました
【読者よ！おまえら俺の心を掴め！】ですね
わたしは彼の作品を読みましたが、こちらの心に訴えてくるものが何もなかった

まして、ゆみかさんが、あの日記で仰りたかった意味を深く捉えようとはせず

言葉の表面だけで因縁付けているだけです

あまり、気を落とされないように」

A氏が、スパツと言った「読者よ俺の心を掴め！」は、名言だと思っ。

私は、その心根が透けて見える小説が嫌いだ。

・・・このA氏と自分は、面白い縁で繋がっている。

A氏が体を壊して、自宅で休んでいたときのこと

A氏の友人が「本屋にも行けないんだったらネット小説もあるよ」と教えてくれたとのこと。

たまたま拙作に眼を留めた時に、次回更新予告を私は後書きに付けていた。

「へえ」

予告日に覗くようになり、心待ちにして下さるようになった。

某SNSは「共通の友人」が表記される仕様になっている。

その「共通の友人B氏」と私が遣り取りしている時

「横レスすみませんが」

と入って来たのがA氏であった。

「あ、どうぞどうぞ」と三人で盛り上がったw

しばらくしてからA氏と私はマイミク同士になった。

たまたまツイッターも、なさっていらっしやることが分かり
そこでも遣り取りするようになって
これまた少し経ってから

「えっ？あの人、放課後の作者の人だったの？」

と思ったそうである。

それからマメに私の宣伝をして下さるようになった。
本当に有難いことだと思う。

他にも、放課後を書き始めて、それまでと比べて
あまりの反応の無さに毎日、涙ボロボロこぼしていた頃。

読書家で眼の肥えた年上のマイミクさんに「最近こんな書いて
るんです」

と、恐る恐る紹介してみたところ
(悪いことがあったら、まず狭い範囲の顔が分かる人に指摘して欲
しかったから)

「不覚にも僕は泣いた まさか18禁小説で泣くなんてと思った」
そんな言葉を頂いたこともある。

……こつち「もっとエグい作品が欲しいんだけど」と言われると
思っていた。ドキドキ。

勿論、「高校生の話よりも余呉さんみたいなオトナの話が読みた

いです」

そういういつつ、いつも仕事の帰りにケータイから放課後を読んでくださっている男性既婚読者もいる。

挫けそうになるとき、私が思い浮かべるのはそういう人たちの顔である。

そんな人たちの多くは「なるう」登録まではしていない。

めんどくさがりなのだw作者自身もそうだからよく分かる。類は友を呼ぶのであるwww

どんなに言い繕っていても、ネットに小説を上げている人間は

「目立ちたい」

そういう欲が毛筋ほどもないとは言わせない。それが自然な姿だろうと思う。

目立ちたい欲望が自然に備わっている欲求ならば、ある程度の期間が経った時期からは他者の作品に眼を通さないはずがない。

だって目立ちたくないなら自分のブログで書いてたらいいことだもん。

目立ちたくないけど「なるう」「ノクタ」でポイント沢山あったら嬉しいよね。それが普通。

私だってちょっとでも目立ちたいw

だから現在「ノクターン・ピクアップ作品」の中に入って嬉しいもん。

今、ノクタの上位を席卷している方々は凄いと素直に思う。
例えたら ジャニーズみたいな感じ。

きらびやかで、眩しくて。その人達はホントに凄い。

その人達だって、もしかしたら自分の地位を守る為に必死なのか
もしれない。

王者というものは孤独なものだ。

だけど、そこから外れている人の作品群だって、キラキラしてる
ものは沢山ある。

私は「あ、読みたいな」と思った作品があったら

まず感想欄から眼を通す人間なので

その欄に書いてある文章と、それに対しての作者の反応を見て
から

作品を読むことにしている。

勿論、私は体ひとつしかないしw見逃しているキラキラは沢山あ
る。

そこで思う、

ジャニーズの人たちはジャニーズの人たちの御苦労がある。

でも、私なりに私の器量で、泥臭いことをしているのは事実。

でない読者増えないじゃんwポイントも増えないじゃんwww

(自嘲)

(毎日、母親とキャベツばかり食べていた頃の八代亜紀さんのように
もつと言えば

毎日毎日、何百と自腹を切ってカセットテープにネタを録音して

雨の日も風の日も、奥さんと一緒に高速道路のサービスエリアに立ち

観光バスの乗降客や運転手さんに、それを手配りしていた
綾小路きみまろさんみたいに)

とある場所で私の作品がランキング上位にいることは
八代さんや、きみまろさんが陽の目を見たと同じことだと思って
いる。

私が告知して愛読者が動く。普通じゃないのかな……。
なるう登録とか面倒な手間も要らないんだったら、余計にポチッ
とするやる普通w

ホントはこの話、するかどうか散々迷っていた。
総合ポイント4桁ジャーニーズ集団からみたら
「なんでアイツの作品がランキング上位なんだよ
」と思うことは必至だろう。

自慢話にしか読めない方々もいるかもしれない。

それは仕方ない。

だけど私の営業努力も、ちょっと分かって下さいね。
お願いします^^

固定愛読者という有難い存在について（後書き）

18禁カテゴリになりますが「のくむん雑談所」名義で「おばかさん」という作品を書かせて頂いています。苦勞した人、傷ついた人が報われる人生であって欲しい、そんな気持ちをいっぱいに詰めた作品です。

日本語を綺麗に使いたいと思う今日此の頃

書き言葉と話し言葉は違う。

書き言葉では、男女の性差やキャラの口癖も、興奮した時の口調や穏やかな時の口調も違う。

話し言葉でも、そうでしょうか？

教師や上司、親に対しての言葉遣いや、友人同士でのオシャベリの時。

全然、違うものだと思う。

又、私個人のことではありますが。私の家族は非常に言葉遣いが汚い、乱暴な家族だった。

そんな家族が「優しさ」「礼儀」「節度」などと教えてくれる訳もなくwそりゃもう大変。

だから、ある程度、自覚して直せるようになったのは、十代の後半くらいから。

非常に苦労しました。

そんな私は、やはり「言葉遣い」の綺麗な人に男女問わずに憧れる。

T・P・Oの使い分けが出来る人とかね。

そう思っているのが原因なのだろう、時々、自分よりも若い人の言葉遣いにビックリすることがある。

乱暴なだけなら、まだいい。

汚いのだ。

で、目上の人にも当然、それで話を進める。

それはちょっと引くなあ……。

やはり、日本人として生まれたからには、綺麗な日本語を使っていたいし、使えるようになりたいと切に思う。

綺麗な日本語の並べ方、選び方が出来る作家さんは無条件に尊敬してしまう。

「なるう」では展開が遅くてすみません、スピンオフの話

おはようございます。

今、家の前で破裂した水道管の工事をしてますorz

拙作「放課後、彼女にキスしよう」、コレ苦しいけど大好きな作品ですね。

手を掛ければ掛けるほど、それだけ良くなるというか。

おそらくあまり目立たない作品ではありますが（笑）。

さて。この作品のスピンオフを、先日、18禁男性専用カテゴリにアップさせて頂きました。

タイトルは「彼女のおっぱいは僕のもの！」です。

元々、「放課後」は、それぞれのキャラの骨格を据えてから描きはじめた作品です。

実は成人してからの年表も作っているんです（ネタバレ）。

「放課後」本編/18禁男性専用カテゴリ連載……コレが進んで行くうちに、他の子も出してあげたい、早く出してあげなくちゃ、そう思っていた時に「参加募集、短編小説企画！」という文言が目に留まったんですね。

いいもの、みつけた

最初はこう思って参加表明したのですが……（以下、略）。

……しかし近藤って、そんなにイイんだらうか？

あいつ兄弟多いし、家族の中でも長男だから、それなりにリーダー

シップみたいなのは有る。

由佳を前にすると、部活中とはまるきり違ってへナへナになっちゃ
う。

作者自身は柳楽が好きですね。

無愛想で、言葉が足りなくて。人付き合いが下手で。けど気持ちは
誰かに優しくなりたい、みたいな。

柳楽は、もうちょっと長く丁寧に書きたい。ちゃんとした恋愛の連
載にします。だから今、体が三つくらい欲しい。

今、近藤のストーリーを一生懸命、丁寧に作っているのは、キャラ
が共有する時系列の齟齬がないようにしていたいから。

スピノフで書かせて頂いた鳥飼さんは、近藤とは違った「真面目
さ」と、近藤にはない「融通の利かなさ」はありますね。

んでもって、そのスピノフの中で、石井先生と女生徒との恋愛も
さり気なく匂わしていると言っね(笑)。

本日の「一度でいいんですっ」

私は今、18歳以上の年齢対象のところ「ノクターン」で、連載を続けています。

……余談になりますが、元々、人生で初めて仕上げた初作も「ノクターン」に投下したせいもあり、そこで、タイトルの目新しさもあったのか、内容の設定が「議員と秘書」というものだった為か、割とすぐに「お気に入り」が固まって付いたんですね。

嬉しかったですよ！ そりゃあもう。二作目もそうでした。

さて話を戻して。

そこも「なるう」と同じように「異世界ファンタジー」が主流です。

そこに作品を投下し始めた今年の3月頃は、全然そんなのが分からなかった状態でした。

ちよつとずつ、周りを見る余裕が出て来てから「こんなに一杯あるの？」とビックリしたくらい。

正直言つて「なるう」の作品もあまりにも数が多くて、当時は全然まったく、眼を通す気分にはならなかったです。「放課後、彼女にキスしよう」の更新を48時間毎に設定していたせいもあります。

他の人の作品を見る余裕なんか無い無い。

何でも、2009年の9月に規定が変わって云々……というお話を、前からいらっしやる方から最近伺ったのですが、「今、この状

態」なんだから仕方ない。この状態の中で勝負を掛けた訳ですから。「自分の文章は、どれだけ他人にアピール出来る能力があるんだろう?」というね。女性専用の18禁サイト「ムーンライトノベルズ」もありますけれども、敢えて私は男の人ばかりのところに向かった。その理由を書くのはまた後日ということに致します。

とにかく御蔭様で「ノクターン」の中では決して派手な存在ではないと思うけれども、その代わりに、地道に、愛読者の方々を拾い上げて来たという自負があります。

で、「異世界」「ハーレム」「チート展開」ですよ(笑)。

素直に告白すると、私は、これらの言葉は嫌ってましたし、安易に頼らずに「地に脚を付けた小説を描きたい」と思っていました。

でも、此の頃、そんな風に頭ごなしに嫌いだから読まないとか、嫌いだからチャレンジしない、とか、それも損かなーと思うように変わっていました。

5月6月頃は、傲岸不遜に思っていましたからね。

「こんなファンタジーなんか、有得ないものがウケてるなんて、有得ない。ハーレムなんて！ は、ハーレム！！ 非道德的なものが？ 性描写だけならともかく？ どこが私と違うのか分からない」

その秘密が知りたいと猛烈に思うようになりました。

そんな感情がキツカケになって、とりあえず名前が上方向に上がっている作品に眼を通して行きました。

打ちのめされちゃいました

異世界チーレムでも、面白いものは面白い。ハーレムであっても「どうせフィクションの世界なんだしーい」などと、思いながらキャラクターに共感したり、呆れたりできるものはできる。

「ちっ」

舌打ちしてたって体と脳味噌は正直なもので、空いた時間で自分の小説と全く毛色が違うものを読んだりしました。

完敗でした キャハ

……やはり、上位にある作品は、上位にいるだけの理由はあるのです。あ、勿論、狭量な私の価値観で「中身サッパリこれ、だめじやん」つてのもあります（笑）。く、口が裂けても言わないんだからねっ（笑）。

それでもやはり「赤の他人様に「評価ポイントをつけさせ」「お気に入り登録させ」という、すごい手間ヒマ」を掛けさせる価値があつて然るべき作品が、上位には来ている。

それはなんだろう？

そう思って、また角度を変えて必死で、無い知恵を振り絞りながら、自分との差異を探して行っている過程の途中ではあります。現在在は。

けど、そうやっていたことは、結果的に凄く良かったと自信を持つて言えます。

次の欲が出てきたから。

私は、一作でいいから総合ポイント4桁を叩き出してみたいです。実情、大体、「お気に入り」が100件あれば、何人かは必ず、文章やストーリー評価をつけて下さる方はいらっしゃるので、総合で300ポイントを超えることが分かりました。

どんなにスマートな性格の人であっても、「自分の作品を上位ランキングに入れたい」欲は必ずあるはず。生身の人間ですから、修羅の生命はあるのです。逆に、少し話は外れますが、生身の人間に修羅の命があるからこそ、文明は発達してきたのです。はい、言い切ります（笑）。

文章やストーリーを誰も評価してくださらなくても、ついつつか「お気に入り」登録してくださった方が500人いれば4桁達成です（笑）。

極端な話、それでもいい。

一度、そこまでのラインに自分を押し上げてみたい。

何故、そこまでこだわるのかって？

そしたら、「ノクタという市場で、沢山の人を振り向かせるテクニク」が身に就くでしょう？

それは絶対に、今後の自分にも役に立つと思うから。だからやってみよう。

今、真剣にそう思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4659x/>

放課後は彼氏と寄り道を

2011年10月20日02時11分発行